●こんろ

天ぷら油を加熱中にこんろの火を消さずにその場を離れると，天ぷら油が発火温度に達し，火災になります。

また，こんろの周りに燃えやすい物が置いてあると，こんろの直火に触れたり，放射される熱で燃えることがあります。

こんろによる火災を防ぐには，次のことを心掛けましょう。

①火を付けたままで，その場を離れない。
②点火後は，炎を確認し，調整する。
③こんろの周りに燃えやすい物を置かない。
④こびりついた油汚れ等は，こまめに掃除する。
⑤傷んだり古くなったガスホースは，早めに取り替える。
⑥衣服のそで口など，着衣着火に気を付ける。

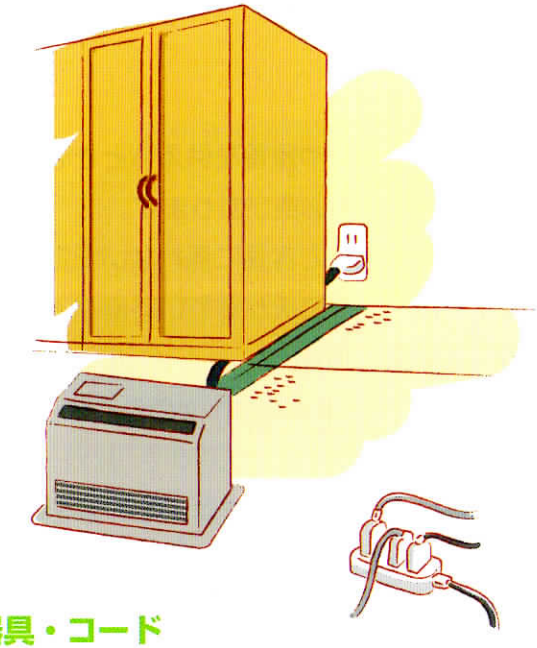
●ローソク・線香

仏壇や神棚などにローソクや線香を供えるときは，周りに燃えやすい物がないか，確認する必要があります。

ローソク立ては，風や振動で容易に倒れない安定した物を使用しましょう。また，ローソクの火が着ている服などに燃え移り，大やけどをすることもあります。

ローソクなどからの火災を防ぐには，次のことを心掛けましょう。

①ローソクや線香に火を付けたときは，その場を離れない。
②ローソク立ては，安定した物を使用する。
③ローソクや線香の周りに燃えやすい物を置かない。
④マッチ等の燃えかすは，確実に始末する。
⑤ローソクの形をした電灯の使用も検討しましょう。



●電気器具・コード

電気は，裸火を使わないため安全だと思いがちですが，傷ついたコードが短絡したり，たこ足配線でコードが発熱して火災になることがあります。

また，プラグを長期間コンセントに差し込んだまま使用していると，ほこりや水分が作用して出火することがあります。（トラッキング現象）

電気器具等による火災を防ぐには，次のことを心掛けましょう。

①コードをタンスなどの下に敷いたままにしない。
②劣化，破損したコードやプラグを使用しない。
③たこ足配線をしない。
④コードを束ねたまま使用しない。
⑤プラグは，長期間コンセントに差し込んだままにせず，時々，乾いた布で掃除する。
⑥電気配線の素人工事はしない。

●放火

京都市内では，放火による火災が昭和51年以降連続して火災原因のワースト1となっています。

放火火災を防ぐには，普段から放火されない環境をつくることが大切です。

放火による火災を防ぐには，次のことを心掛けましょう。

放火防止5カ条

①家の周りには，燃えやすい物を置かないようにしましょう。
②夜間，建物の周囲や駐車場は，照明を点灯して明るくしましょう。
③空き家，物置にはカギをかけましょう。
④車やバイクなどのボディカバーは，燃えにくいものを使いましょう。
⑤地域ぐるみで放火防止に取り組みましょう。

●在宅酸素療法中の火災危険について

在宅酸素療法（Home Oxygen Therapy　通称HOT）とは，慢性呼吸器不全の方が自宅に酸素供給機を設置し，必要なときに酸素吸入をする在宅療法で，鼻腔カニューラ（室内で15～20mの延長が可能）による吸入が一般的です。

酸素は可燃性ガスではないので自ら燃焼することはなく安全ですが，支燃性ガスのため，燃えているものをさらに燃えやすくする性質があります。

酸素吸入中に，喫煙しようとして炎がチューブに着火したり，蚊取線香の火が知らない間に着火するなどして，負傷されたり亡くなられるケースが後を絶ちません。

在宅酸素療法をされている方へは，次のことを心掛けるよう指導して下さい。

①酸素吸入中は火気厳禁，禁煙です。
②周囲2m以内に火気を置かないようにしましょう。線香，ろうそく，蚊取り線香，たばこ，ガスこんろ，暖房器具などに注意しましょう。
③喫煙中の人にも近付かないようにしましょう。
④やむを得ずに喫煙・調理など火気を使用する場合は，酸素の供給を停止しましょう。
⑤酸素供給機等を使用しないときは，電源を切りましょう。
⑥在宅酸素療法をされている方だけでなく，家族や周囲の人々も火気管理等に注意しましょう。

●たばこが有炎燃焼すると，容易にカニューラの吹き出し口に着火し，即燃的に燃焼する。

●防火の4チェック

火気取扱器具や電気器具による火災を防ぐための点検方法に「防火の4チェック」という方法があります。

これらの器具を使うときは，是非，この4項目を確認してください。

防火チェック① 場所が危険ではないか？

安全な器具でも，燃えやすい物の近くで使用すれば火が燃え移ることがあります。火を使う器具や熱くなる器具を使うときには，その場所で使ってよいかどうか，確認してください。

防火チェック② 器具は安全か？

器具が故障していたり，古くなって劣化していたりすると，思わぬ火災になることがあります。「変なにおいがする」，「音がおかしい」，「炎の色が極端に明るい」など，いつもと様子が違うときは使用を中止し，点検してください。正常な状態に戻らない場合は，専門の業者に点検や修理を依頼してください。

防火チェック③ 使い方は正しいか？

器具は正しく使うことが大切です。器具には使用目的に合った使い方があり，それ以外の使い方をすると火災になることがあります。取扱説明書をよく読んで，正しい使い方で使用してください。

防火チェック④ あと始末は完全か？

火を使った後は，どんなものでも確実に火が消えたことを確認してください。電気器具はスイッチを切り，コンセントからプラグを抜いてください。

防火のチェックとアドバイスをお願いします

たばこ ☐ 吸う ☐ 吸わない	☐ 灰皿は縁の広いものを使用している ☐ 灰皿に水を入れている ☐ 灰皿に吸い殻がたまっていない ☐ 決まった場所で喫煙している ☐ 灰皿の周りに燃えやすい物はない ☐ ゴミ箱に吸い殻を捨てていない ☐ 床面や布団に焦げ跡がない
こんろ ☐ ガス ☐ 電気	☐ 調理中はその場を離れない ☐ 周りは整理整とんされている ☐ グリル内はこまめに手入れし，油かす等がたまっていない ☐ そばに燃えやすい物はない ☐ ガスのゴム管が劣化していない ☐ 壁から離して置いている（15cm以上） ☐ 安全装置が付いている
ストーブ ☐ 灯油 ☐ ガス ☐ 電気	☐ カーテンや家具に近付けて置いていない ☐ ストーブ上に洗濯物を干していない ☐ 周りに燃えやすい物を置いていない ☐ 付けたまま寝ていない ☐ 灯油は適正な場所に置かれている ☐ 時々換気をしている

コード・プラグ	☐ カーペットや家具の下敷きになっていない ☐ コードを束ねたまま使用していない ☐ たこ足配線をしていない ☐ 使用しない機器のコードは抜いている ☐ コンセントやプラグにほこりがたまっていない ☐ プラグがコンセントに確実にささっている（取付けている）
ローソク・線香	☐ 火を付けたまま，その場を離れていない ☐ 安定したローソク立てを使用している ☐ 床面に焦げ跡がない ☐ 灰はこまめに掃除している（灰がたまっていない）
緊急通報システム	☐ 適正な場所に置かれている ☐ 使い方や仕組みを理解している
その他	☐ 廊下や階段に燃えやすい物や避難の支障となる物を置いていない ☐ 家の周りに燃えやすい物を置いていない ☐ 近隣者等による救出体制ができている ☐ 前回の指導事項が改善されている

3 正しい119番通報の知識を身に着けよう

●119番通報はどこにかかるの？

京都市内からかけられる119番通報は，全て京都市消防局の消防指令センターで受け付けています。

ただし，携帯電話の場合には，一部ですが，発信する場所により，京都市周辺の消防本部につながることがあります。このような場合には受信した消防本部から京都市消防局の消防指令センターへ転送又は連絡されます。

通　報　の　ポ　イ　ン　ト

119番通報をするときはあわてず正確に

1：火事か救急か
2：住所（目標物も併せて）
　○○区○○町○○番地
　（目標：○○小学校南側など）
3：氏　名
4：燃えているものの状況，けがの状況などを伝えます

●公衆電話からの通報

公衆電話から119番通報する場合は，赤い緊急通報用ボタンを押し，119をダイヤルしてください。

デジタル公衆電話の場合は，受話器を上げて，そのまま119をダイヤルしてください。

●携帯電話からの通報

携帯電話やPHSから119番通報する場合は，電話が途切れたり，切れたりするおそれがありますので，場所を移動せずに通報してください。

また，住所は，市町村名から伝えてください。

●緊急通報システム・消防ファクシミリ

高齢者や身体に障がいがある方が家庭内で急病や火災等の緊急事態に遭われたとき，機器の押しボタン，ペンダント型押しボタン又はまくら元用押しボタンを押すだけで自動的に消防指令センターに通報できる緊急通報システム「あんしんネット119」があります。

また，耳や言葉の不自由な方からの緊急通報を確保するため，ファクシミリを使用した「消防ファクシミリ」があります。

●京都市Web119（ウェブ119）

耳や言葉の不自由な方からの緊急通報の手段として，消防ファクシミリのほかに，携帯電話のインターネット機能を利用して通報する「京都市 Web119」もあります。